

こはぎ
@kohagi_tw


ひとなつ

Twitter 夏恋合同短歌集

おちゃこ
@ochakon

昨日とは少し違う君まなざしに眩むは見慣れぬ半袖のせい

ちょっとだけ日焼けした腕眩しくて半歩後ろでそっと盗み見



汗ばんだ手と手がぶつかる瞬間に耳に響くは揺れる心音

この夏はビキニを買ってみようかな？気が早いかな。まずはワンピースで？

ワンピース スカート カーデ キャミソール 視線欲しくて迷う姿見

初めての助手席裾が気になってうまく喋れず空回りして

手をつなぐことに慣れたい跳ねる鼓動抑えて三度目の待ち合わせ

どうしよう急に会えるの嬉しいでも切ったばかりの髪が跳ねちゃう

すれ違うことで気付いたいつの間にこんなに恋の真ん中に居た

突風にさらわれるよなくちづけに眠れぬままになぞる唇

熱いなど包まれた頬カクテルのせいではないと知ってるでしょう

眠る前柔らかい声聞きたくて繋がらぬままひとつ溜息

毎夜ごとやわらかな声に溶けてゆくこのまま夢の中へ連れて行く

何となく心許ないもやもやを吹き飛ばしたいファミレストーク


カフェオレをお代わりするたび近付いた核心あなたも恋にいるのね

ダブルデートもいいよねと覗き込み繋いだ小指ふたりの未来

「行くのならふたりきりがいい」強引に君は絡め取る小指と不安

観たかったロードショーは今日まででポップコーンが胸につかえて

暗闇で見上げる横顔 映画より見つめていたい君という人



ドタキャンの埋め合わせなの？耳たぶにそっと刺さった海色ピアス

耳たぶに夏を閉じ込め海色のピアスは揺れるこの恋に似て

お返しはあなたの部屋で手料理は？うわずる決意やんわりスルー

君からの想いを耳に留め置いて飲み込む不安と小さな嘘と

週3日会えない曜日決まっててアドレス見つつ不在を埋めて

仕事なら仕方ないけど「会いたい」を飲み込む練習ばかりしている

何度でも身体重ねて確かめてそれでも消えぬ胸のざわつき

今日もまた強引なその唇で閉じ込められた渦巻く不安

気づかれぬようでも強く唇で腰の裏側愛のしるしを

安らぎを貪り眠る君の背に見慣れぬ花の咲く痕を知る

ごめんねとポツリつぶやくその裏でそんなに怒る訳をさぐるの

何をしていても眼裏に君の背の花咲き乱れ心乱れて

言葉にはできない黒い塊がいつも居座り呼吸^{いき}ができない

もしかしてもしかしてをまた繰り返す君の周りで絶えぬ花の香

新しいカフェに誘った友人の火照る臉に言葉なくして

ぽつぽつと雨垂れのように語り出すあなたの耳に光る海色

ざわざわと不安の波が押し寄せてあなたの耳で揺れる海色

疑って打ち消してまた疑って思考彷徨う深海の色

吐きそうになる妄想に苛まれ昼も夜もなく^{とき}時間だけが過ぎ

確証もない霧のなか闇雲に君とあなたの笑顔を探す

問いただす勇気ないのに言葉尻ひとつ捉えて一喜一憂

紙切れに変わるくらいならあなたへと託す 君といくはずのチケット

戸惑いを隠し受け取るチケットを覚悟を決めて彼の手を取り

最終日ぬるいカフェオレ啜りつつ知らぬ間に居た劇場のカフェ

「カフェラテを頼む」と急に席を立つ振り向けずにいる彼女に似た人

振り向けずいるこの背中で受け取った馴染みある声と花の香りに

足早に一方向的に喋るのは核心突かれぬための作戦？

「ねえ待って！」無理やり君を振り向かせ嘘だと言ってお願い知らぬと

のらくらと何を聞いてもかわされて否定の言葉もうわっ滑りで

確信をしているくせにまだ違う答えを探し彷徨う夜更け

溜息に終わりはなくて沈黙の携帯握り過ごす日常

さよならを転がしながらまだ君の姿焼き付く熱い眼裏


携帯のアドレス帳を開いては真実への別れ道探す

カフェの窓越し眺めてた 街をゆく君が手を引く新しい花

もう前を向いてるあなた新しい花一瞥もくれず一步を

たくさんの花の香纏いゆく君の先は茨の道か荒野か

「お揃いの揺れるピアスはもう捨てた？」彼女の瞳探る海色



夏色の海に行こうよお揃いのピアスと恋を葬るために

海色に心浸して解き放とう焼けて焦がれたふたり「ひと夏」

こはぎ
@kohagi_tw

ひとなつ 編集・装丁：こはぎ @kohagi_tw
発行：2011年夏

おちゃこ
@ochakon